

令和元（平成31）年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月26日実施)	総合評価(3月18日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①福祉マインドの育成を図り、手話の普及を進める。 ②生徒の主体的・協働的な学習活動を進めるとともに、教育の質と量の向上を図る。	①福祉マインドの育成に向けて、総合的な探究の時間を充実させるとともに、集会や式典などで手話に触れる機会を増やす。 ②研究授業や授業観察を充実させるとともに、生徒の学力向上を踏まえた新教育課程を編成する。	①総合的な探究の時間において、課題設定に向けて講話や体験等を行う。手話に触れる機会を設定する。 ②年次研修の研究授業・公開研究授業を中心に、定期的にお互いの授業を見合う機会を作る。 ②新教育課程編成指針に基づき具体策を策定し、新教育課程を編成する。	①福祉マインドの育成に向けた課題設定ができたか。 ②全職員が2回以上、他の授業を参観したか。 ②新教育課程編成指針に基づいた具体策を策定することができたか。	①総合的な探究の時間において、外部講師による講演や体験授業を企画し、課題設定を行い、探究活動を合同発表会で発表した。校歌手話を1年生が発表会で発表した。 ②11月の公開研究授業及び研究授業において、事前事後の協議会を行うことにより、授業改善を充実させる工夫をした。日野中央高等特別支援学校より職員50名参加。 ②新教育課程編成指針に従い具体策を策定した。	①総合的な探究の時間で、課題設定、調査研究、発表をさせ、福祉マインドを育成する。 ②公開研究授業を様々な教科で行い、教科横断的な授業に向けて改善する。 ②具体策を具現化するために、グループや教科において検討する。	・「課題設定」について、量と質の面から数値化は可能か。 ・公開研究授業は、担当の先生の負荷は大きいと推察されるが、変化する生徒に対応する新しい視点を得る機会と考えれば、良い仕組みと思う。参観した授業は分布をシャープにする効果は感じるが、生徒自身で気がついていない資質(能力)を開花させる南陵を期待したい。 ・教育課程編成具体策はPDCAのスケジュールにより計画的に進めると良い。	・同窓会の寄付で生徒棟4階7教室にプロジェクターを整備した。 ・タブレット等を利用した公開研究授業を実施し、ICT教育に向けた取組みを推進させた。今後は、どのように全職員に活用を広げていくかが課題である。	・「ICT機器を活用した授業づくり」をテーマに据えた授業観察を行う等、全校体制によるICT教育に向け取組みをさらに推進する ・新教育課程編成指針に基づく具体策の実現を検討する。
2 生徒指導 ・支援	豊かな人間性と社会性を育み、一人ひとりに応じたきめ細かな支援をする。	①規範意識の醸成を図るとともに、支援を必要とする生徒のため教育相談体制を充実させる。 ②学校行事において、生徒が主体的に企画・運営を行うようにする。	①服装の基準を整理し、統一した指導ができるようにする。また遅刻者への指導方法を見直す。 ①授業に遅刻しない指導を徹底し、生徒の授業を大切にする心を育てる。 ①個々の生徒に寄り添う指導をし、必要に応じてケース会議を設定する。 ②各行事において、個々の生徒や学級の意見が反映されるように、生徒会および学級・学年、部活動の連携を強化する。	①服装指導を通して生徒に服装の基準を守る習慣が浸透したか。遅刻指導対象者が前年に比べて減少したか。 ①生徒の授業に取り組む姿勢が向上したか。 ②学校行事において、生徒が主体となった企画運営がなされているか。	①夏季の服装について、基準は守られていた。冬季の服装の基準を各クラスに掲示し、服装指導を徹底した。 遅刻指導を4回実施、指導対象者はほぼ昨年並みであった。 1年15名 2年40名 3年50名 ①遅刻指導の際、授業への出席についてもあわせて指導した。 ②学校行事については各実行委員会が中心となり生徒主体の企画運営がなされた。	①遅刻回数減少に向けて指導方法を工夫していく。 ①授業に関する五か条を浸透させ、生徒の授業への取組を向上させる。集会等で授業を大切にしよう、呼びかけていく。 ②3大行事以外の行事についても生徒主体の運営をめざす。	・風紀が乱れているとは思わない。先生の指導の成果と推察する。 ・遅刻の原因は、「なるほど」と思うものがあるはずなので、指導継続の中での現状容認も選択肢と思う。ただ、遅刻という手段でシグナルを発している生徒もいると思うので、目線を合わせたヒアリングは大事と思います。 ・生徒指導について保護者との連携を取ってほしい。	・規範意識の醸成を図ることは今年度においても一定程度達成されている。今後は、支援を必要とする生徒に対して、担任及び学年が、SC、養護教諭と連携を図り、個々に沿った対応を深めていくことが目標となる。 ・部活動への加入率80%台を目指し新たな対策を講じる必要がある。	・定期的に面談等を行い、生徒一人ひとりの状況を把握し、必要に応じケース会議等を実施するとともに、保護者とも連絡を密にして安心・安全な学校生活を送れる対策を講ずる。 活動支援Gを中心に、部活動など学校生活を充実させるような取組みを進める。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(2月26日実施)	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が自らの意志と責任で、よりよい進路選択ができるよう、進路指導計画の充実を図る。	①大学入試変革に対応した進路指導及び調査書作成方法を研究する。 ②生徒が自己実現に向けて主体的に挑戦する姿勢を育成する。	①大学入試制度の変革に係る情報を収集し、生徒の進路状況に合わせて「生徒活動の記録」を最適化する。 ②総合的な学習(探究)の時間等において計画的なキャリア教育に取り組む。	①情報を収集し、職員に還元できたか。「生徒活動の記録」を改善できたか。 ②計画的にキャリア教育に取り組むことができたか。	①8月:進路関連業者を招きグループ内研修。 12月:予備校関係者を招き、全職員対象に「新大学入試制度に係る外部講師による職員研修会」を実施した。 ②概ね予定通り実施できた。英語民間試験をより効果的に実施できるように改善した。	①外部講師による研修を効果的に行うことにより、全体状況を正確に把握する。 ②新しい大学入試制度の概要を計画的に生徒に説明する。	・先生の負荷は大きいが入試制度の変革は生徒への動機付け面からもチャンスと思う。 ・部活単位で動機付けの場を設ければ期待できるのでは。例えば、部活卒業生などの意見は通じるものがあると思う。 ・「生徒活動の記録」について、校内評価の内容を明確にしてほしい。	・「新大学入試制度に係る外部講師による職員研修会」により、職員が情報を共有することができた。	・「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」等の有効活用により、生徒の進路意識を高め、主体性を育む進路指導に取り組む。
4	地域等との協働	地域との連携・協働を推進し、地域から愛される学校づくりを進める。	①地域貢献活動及びボランティア活動を活性化させる。 ②教職員・生徒の防災意識を高めるとともに、地域と連携した防災体制を構築する。	①福祉マインドの育成に繋がるような地域貢献活動を企画・実践する。 ①ボランティア委員会等で地域の防災活動等に参加する。 ②地域と連携した防災訓練に積極的に参加するとともに、学年での災害図上訓練を企画する。	①地域貢献活動に多くの生徒が参加したか。 ①地域の防災活動等に参加したか。 ②学年での災害図上訓練を企画できたか。地域の防災訓練への参加者が昨年度より増えたか。	①地域貢献活動として、10月11日1学年、11月15・22日3学年、3月17日2学年、地域清掃を実施した。 ①②10月27日(日)地域の防災訓練に、防災委員・社会福祉部・アメフト部の生徒など43名、引率教員4名が参加し、トイレの組立など協力して行い大変感謝された。 ① ボランティア委員会で地域の行事に参加協力した。洋光台ハロウィンパーティー8名参加。	①地域清掃については、雨天中止となった日もあったが、今後も学校全体で取り組み地域の方に親しまれる学校を目指す。 ②12月3日教員のDIG研修を行い、12月13日LHRにおいて1学年全員で災害図上訓練を実施し成果を上げた。次年度は、1学年4月実施を企画し、早い段階で学校の周りの防災留意地域を把握させるようにする。 ボランティア委員の意識をどう高めていくかは今後の課題である。	・全学年展開の清掃活動には頭が下がります。積極的に取り組む生徒ばかりではないが、あとから振り返れば、彼らにも残るものがあると思います。 ・地域防災訓練での行動は「さすが南陵生」との意見が多い。頼もしく、また存在感を出していました。 ・地域貢献活動には何人参加したか。参加者増への方策も考えてほしい。	・地域の防災訓練には今年度も積極的に参加し、地域から評価を得るなど成果をあげた。	・令和2年度より1学年において、入学直後に「DIG(災害図上訓練)」を実施し、今後予測される大規模地震等の自然災害に備え、生徒の災害対応力の向上に取り組む。
5	学校管理 学校運営	生徒が安心して通える、安全で信頼される学校づくりを進める。	①安全・安心の学習環境を整備する。 ②事故・不祥事防止について職員の意識を高める	①交通安全指導を継続的に実施する。 ①防災用ヘルメットを活用した避難訓練を実施する。 ②事故防止に対する意識を高めるような研修会を実施する。	①生徒に交通ルールを守り安全に気をつけて登下校する習慣がついたか。 ①防災用ヘルメットを活用した避難訓練を実施したか。 ②教職員の事故防止への意識が高まったか。	①毎月1週間、学校周辺の3ヶ所で登下校指導を実施した。外部からの連絡8件。 ①8月23日防災用ヘルメットを活用した避難訓練を実施した。きめ細かな準備を行うことでスムーズに実施することができた。 ②10月29日(火)個人情報の管理について研修を実施し、教職員の事故防止への意識を高めることができた。	①登下校マナーの向上につながる指導方法の工夫が必要である。 ①ヘルメットを引越用段ボールに保管し、今後も8月末の避難訓練に活用するなど有事の際に有効に活用できるよう備える。 ②不祥事防止研修について、今年度と同様具体的な事例をもとにした内容を企画するとともに今年度よりも早く7月に実施する。	・きめ細かい指導には頭が下がります。 自転車通学が200人を超えていることから、自分自身の安全確保、相手にケガをさせない大事さ(賠償責任)を口頭でよいので継続指導することを願いたい。 ・登下校指導までやらずとも生徒たちのモラルは高いと認識しています。	・学校運営協議会での意見やアドバイスを、地元自治会との交流等をもとに、地域に信頼される学校を目指す。	・職員輪番による事故・不祥事防止に向けた標語を作成し、週はじめに打合せで発表、全職員で事故・不祥事防止に向けた取り組みを展開する。 ・事故・不祥事に関する注意事項は速やかに職員室内に掲示し「見える化」に努め周知徹底を図る。